3メガ損保 純利益2.6倍

4～9月 5248億円、再編後で最高

損害保険大手3グループの2021年4～9月期決算が19日出そろった。国内で大規模な自然災害がなく、契約者へ支払う保険金は低水準だった。合計の連結純利益は前年同期の2・6倍となる5248億円と10年に3メガ体制が確立してから過去最高を更新した。通期でも全社が最高益となる見通しだが、欧米の物価上昇で保険金が膨らむ懸念も出ている。

例年より国内の自然災害が少なかった。近年相次いだ大型の台風や豪雨で保険金の支払額が増えてきたが、再保険での回収分を考慮した保険金の支払額は計2兆6291億円と直近最も多かった3年前より3%少なかった。海外でも「コロナ禍の前期にかさんだ保険金の支払いが大幅に減った」（MS&ADインシュアランスグループホールディングスの大川畑文昭・専務執行役員）という。

東京海上HDとSOMPOHDは22年3月期の業績見通しを上方修正し、そろって最高益を更新する見通し。MS&ADは期初予想を据え置いたが、純利益は前期比59%増の2300億円と最高益を見込む。

過去に買収した子会社も利益に貢献した。収益に占める海外事業の比率は高まる半面、欧米で進むインフレが懸念材料になっている。とりわけ米国では10月の消費者物価指数（CPI）上昇率が6%台と約31年ぶりの高さだった。物価上昇で賠償金の支払額が膨らめば、損益の悪化要因となる。東京海上の遠藤良成常務は「1年ごとに更新する契約でリスクに見合った保険料を設定していく」と話した。

掲載日 2021年11月20日 日本経済新聞 朝刊 5ページ ©日本経済新聞社 無断複製転載を禁じます。